

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

空所補充, 記述, 論述, 選択, 計算, 描図

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

計算過程を記述する問題は, 昨年度の4問から今年度は1問に減少した。その一方で, 字数指定の論述問題の総字数が大幅に増加(370字→500字)し, 昨年度出題されなかった描図問題が1問出題された。

出題の特徴や昨年との変更点

論述は例年通り「〇〇字以内」という形式で 30字～100字にまとめる問題である。基本知識を問う問題もあるが, 問題文の条件や図から考察する問題もあり, 文章をまとめるのにやや時間を要する。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	空所補充 選択 論述 記述 計算	地球の内部構造	地学基礎 地学	問1と問2, 問4は基本的な知識問題である。問6(3)は, 走時曲線の折れ曲がる地点までの距離とP波速度から地殻の厚さを求める公式を覚えていないと, 正答を得るのは難しい。	やや易
2	記述 選択 描図 計算 論述	地質断面図と堆積岩	地学基礎 地学	問3は, 明示されている地層境界線に沿って滑らかに延ばせば, 正断層になるだろう。問4(2)は, 単位換算に注意しよう。(3)は, 塩分を含んだ水の流入と蒸発が繰り返されることで, 塩が増えることを説明すればよいだろう。	標準
3	空所補充 選択 論述	大気と海洋の相互作用	地学基礎 地学	大問を通じて, 赤道域における平均海面水温の分布をイメージできたかが出来を分けただろう。問2は, 夏季のインドの降水量が多いことに気づきたい。問3は, 赤道上ではコリオリの力が0であるため, 風と同じ向きに気圧傾度力, 逆向きに摩擦力となる。問5は, 東部における冷水の湧昇と, 中央部から西部での海水の移動とのかかわりを考えよう。問6は, 20℃以上の水温の層がどう変化したかをグラフから読み取ろう。	標準
4	空所補充 論述 選択 記述	恒星と太陽系	地学基礎 地学	問4は, ③の自転速度について, 連星でみられるドップラー効果による波長のずれと太陽の暗線のずれをつなげて考えると選択できただろう。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

合格点に到達するためには、教科書に記載されている内容をきちんと理解しておかなければならない。一部、教科書にない用語や現象を取り上げることもあるので、地学を得点源にしたい・高得点を狙う受験生は、図や表を含めて、教科書の参考部分もしっかり読み込んでおきたい。また、計算問題では計算過程を書く場合が多いので、普段から計算の流れを書く習慣をつけておきたい。論述問題は字数制限が「〇〇字程度」ではなく、「〇〇字以内」なので、文章をまとめる力も養っておこう。